

# 洛友会々報

京都市左京区吉田  
京都大学工学部  
電気科教室内  
洛友会



思い出深い図書館の玄関。一昨年の総会でもこの場所で記念撮影をやった。天気も一昨年と同じように良い美しさであった。処は同じだが、人の数と、会員の顔振れは少し変つていた。総会のお蔭で母校を訪れる事が出来たと喜んでゐる人があつた。

## 総会の記録

手にて閉会された。

### 懇親会と湖西遊覧

十一月六日は菊日和、紅葉日和で京阪神の人は二百五十万人だと伝えられた。この二百五十万の中に、我々同窓会の出席者は勿論這入つていた。創立総会を数に入れて第四回の総会が電気教室で開催された。教室玄関前の銀杏が亭々として黄色に色づいて、青い空に輝え赤煉瓦の教室建物とトリオを見せていた。

懐しい教室を出る。文学部などの新築の教室建物を通つて図書館の玄関に行く。見覚えのある写真屋が三脚を据えて待つて居る。記念撮影。女がいないので、場所の争奪がなく、温しく速にポーズを作つて、パチリ(第一頁の写真がこれ)。

貸切りのバスが目の前に待つて居る。一同乗り込む。

松田教授がステッキで身を交え、片手を振つて我々一行を見送つてくれた。(はてなと思う人のために。松田教授が東京へ出張中、旅館の浴室で立ち、倒れた際、腰骨にひびが入り、ギブスをはめて療養中。無理をして総会に出席されたのであるがバスでの遠距離は六敷しいのであつた)。

バスは、栗田口から東海道を下る。(今日の上るといふ)バスガイドは、先般全日本バスガールのコンクールで一等を勝ち得たという〇〇嬢(これは山村幹事がバス会社から強引に引き抜いて来たもの)。

一行は幸か不幸か、バス一台で納つたため組に分かれず一所に楽しんで談じ興する事が出来た。石川への道は舗装されているので気分よく、ガイドの物語りや説明も面白かつた。

三日月楼の大広間に陣取る。瀬田の流れを見おろし、遠く瀬田の唐橋を眺め、一同は学生時代を思い起し感慨無量の体であつた。懇親会が始まる。お膳に、鯉、ごり、ひがいの淡水魚の料理が出て思ひは千々にくだけた事であろう。会長の首頭で乾杯した。盃は廻つて賑かとなる。

今日是指名なしで、しやべる事になつた。大谷幹事が立つて、懇親会費に三階段を付けて出席率を計ろうとしたが、その端境のクラスの出席が少なくて、親切が仇になつたらしいと幹事らしい繰り言も出た。

清水中部支部長。名古屋方面は会員が少いから、卒業生を名古屋方面に大いに送つて貰いたいと仰言つた中部支部では毎月例会を開いて居るが、大体二十名位集つて居ると羨しい話。来年の総会は名古屋だそうだから大挙して来てくれと、宣伝。大きに御馳走になるべしキヤモ。

石沢関西支部長。今日の総会は、関西の連中の熱がないと責められた所以か、屠所の熱のように、しよげておられ、その発言も誠に淋しいもので、大いに同情せずにおられなかつた。

大西冬藏君。東京から熊々出席。総会は無欠席という敬愛すべき会員、関東支部の進み方など披露せられた。

寺西謙三君。神戸から出席。スマート談義が耳に残つて居る。加藤副会長。関東は若い人が活動するのに関西では振わないなどと締めくくりを。

最後に清水中部支部長の発声で、洛友会、会長、電気工学教室、電子工学教室の万歳を三唱して、三日月楼における懇親会を終つた。

再びバスに乗車。下地は良し、天気は良し、気兼ねなしのバスツアーだ。車内は談論交々の賑かさ。

大津市をすぎ、近江神宮を拜し、比叡の麓、坂本をよぎる。琵琶湖の水を隔てて、三上山乃ち近江富士を眺める。俵藤太の昔話。明智光秀の湖水渡。志賀の都をしのぶは勿論の事。湖西の黄金の豊な穂の中を、白塵あげて走る。堅田の浮御堂は、あのあたりと車

十一月六日は菊日和、紅葉日和で京阪神の人は二百五十万人だと伝えられた。この二百五十万の中に、我々同窓会の出席者は勿論這入つていた。創立総会を数に入れて第四回の総会が電気教室で開催された。教室玄関前の銀杏が亭々として黄色に色づいて、青い空に輝え赤煉瓦の教室建物とトリオを見せていた。

午前十時。工藤幹事の司会で開会第一鳥養会長の挨拶。その要約。総会の出席者が第一回より第二回と増加して、今回は、ぐつと減少した。然し波は再び高くなつて多数の出席を見るようになるだろう。出席の少ないのは近畿地区の会員の熱が足りないものと見える。

会員の活動範囲が非常に広がつた事は驚くべき程で、先般、洛友会中部支部で聞いた話だが、飛行機の製作が、今日では電気出身が中心でなくては、飛行機はあり得ないとの事であつた。等々……。

次に山村幹事の会務報告。……。電気出身者総数は二千二百四十四名。死亡者三百七十名。住所不明七十六名。

会報や名簿を送つて居るのが千七百九十八名。然るに本年度の会費を納めて居るのが七百名そこそこである。(これでは、会の運営は成り立たぬ。名簿も入れて八十五%会員が会費を払つて貰えねばパンクする……)……と言いたかつた山村幹事は憎まれてはと遠慮されたので、陰の聲で御知らせする)。

山村幹事声をのんで「どうぞ宜敷しう願います」と汗を拭く。会計報告は中間報告にて数字をあげて報告。かくて総会は、目出度し々の拍

窓から打ち見やり、近江舞子の景勝は夏に譲り、比良山麓と湖水のスロ

バスは進み、牧野スキー場への道と別れ、桜並木が湖岸を走る、海津大崎に着いた。ビール一本づつ貰つた

今日のパストリアは、義経と弁慶の足跡を拾うという趣向だつたかも知れない。或は弁慶のように酒豪の多い洛友会にふさわしかろうと言ふのかも知れない。(陰の声。最初の計画は石山から宇治川ラインを下る積りだつたが、行楽シーズンで大混雑する

幹事が車内歌くらべを宣する。そして歌わないものはバスを降りて貰うと言ふ。筆者の耳に残っているものを書きつらねて見る。実際は、あの人がという面白いのもあつたか知れない。

石沢四郎(大4) 初代雲右衛門の浪曲の真似

道田貞治(明45) おてもやん

林(重)先生 浄瑠璃のまねのまね

上林一雄(大6) 子供が同車して

3)は社用のため浜大津にて下車。

阿部先生 おはこの黒田節

加藤先生 最近仕入れたお富さん

石堂閑雄(昭6) 鹿兒島おぼら

石川芳次郎

小田嶋修三

鳥養利三郎

石沢 四郎

山村 一雄

近藤 文

- 山口 春男
寺西 謙三
北尾 孝也
林 宗明
渡辺 義朗
山本 健三
岩井 励
飯塚 啓吾
中野 嗣郎
木村 隆次

中部支部總會

十月廿二日(土)

何十年振りかの豊年を寿ぐ秋晴れの絶好の日である。だが好天の為、多事多端か、集る洛友の顔の少いは、いささか心細い。木村章介(昭和三年卒)・竹下龍藏(昭和四年卒)の面先輩大なるを痛感する。

定刻午後三時にはNHKの放送会館の応接室に大部分集合して、ハイ・ファイの野球放送に耳を傾けている

林先生、山村本部幹事が、旅の疲れも見せず元気な御姿で、定刻遙か前から、既にお待ち兼ねとは恐れ入る

河野NHK管理課長より新築成つた放送会館の概略の説明があつて、現場の説明に案内される。

高度に進んだ防音、吸音設備と、見学者の為に、業務に全然支障を来さないように出来た近代設備、明るさと、モダンなデザインに一同驚き入る。

会議室や学校の教室に、音響効果を考えたら、さぞかしその効果も偉大なものがあろうと考へさせられる。放送会館の見学に時間をとつて、美術史展を見る時間になつたので、テレビを見ていない人だけ見る事にして会場に引あげた。

前幹事の表彰に続いて、役員は幹事に新しい人を追加して全部重任という事になつて開宴。

少しほろ酔いになつた頃を見計つて自己紹介に入り、宴酣となつて、かねて準備しておいた洛友ヒントゲームに移る。

ヒントゲーム十題、三ヒントゲーム三題(別項)につき、清水支部長より問題が読み上げられ、ストツポツチを押す。酔いが廻つた頃なので、血のメグリはよいが智恵のメグリは悪い。ウーリは悪い。ウーリは悪い。ウーリは悪い。

採点はヒントゲーム一問二点三ヒントゲーム三問で出来ると五点、二問目で三点という具合で、各人の合計点の多い処から順次一等から五等迄。

別に特別賞を設け、各人の合計点の総入

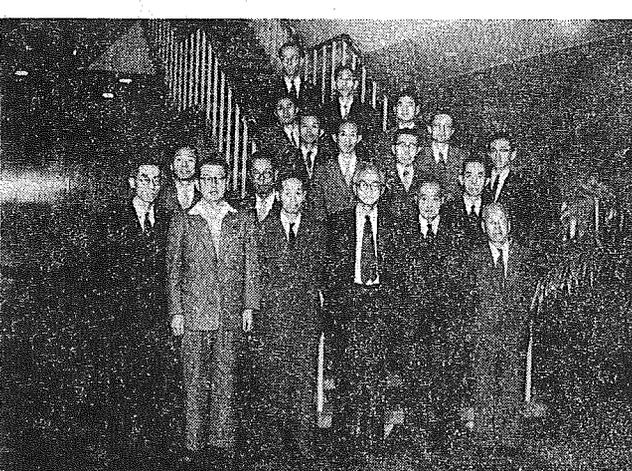
五時半少し過ぎ、清水支部長の挨拶に始つて、林先生の教室の近況報告

山村幹事の本部報告、木村、竹下両

中部支部總會

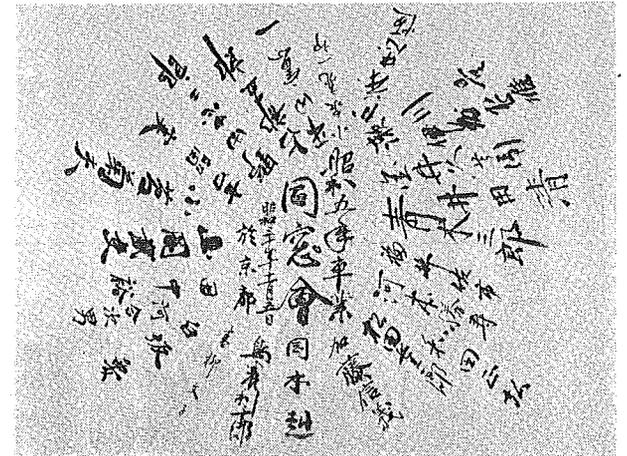
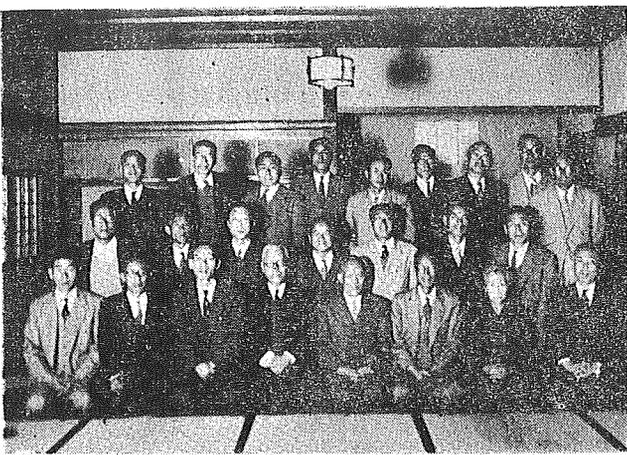
Handwritten calligraphy text, likely a commemorative message or list of names.

中部支部總會



### 二十五周年記念会

昭和五年卒業生の間で、予て計画を進めて来た会が十一月五日から六日にかけて洛東、東山荘を根城に開かれた。東は会津若松、日立、長野富山、西は福岡から集るもの総勢十九人。まづ青蓮院門跡での慰霊祭には青柳先生夫人の御参加を得て、十月亡くなった竹内佛三君を加えて十三人の物故者の霊を弔らい、次いで仁王門通り疎水のほとり有隣館に藤井講師の懇切な説明のもと中華四千年の歴史をほうふつとする古美術の粋を鑑賞。夕景からは鳥養、岡木、加藤、松田の諸先生の御参加を得て、楽焼に興じ、宴に入れば老師の温顔もほころび、思えば厳しい有異転変の四半世紀を経た弟子どもの物語にも熱帯帯び、老師曰頭節の由来から始まって、早速トクトルの効能のあらわれたインド向き電車売込み、〇



・一五gの急加速、予、交流計算盤、一二〇〇に耐えるセレンから、シリコン整流器、チタン酸バリウム圧電体応用、倫元素から枕木、酸酔化学に至る発明物語、ギャング捕物に活躍する警察通信、さては調整電力費をめぐる応酬など、または調馬鹿に返つては親子二代電気教室を昨年息子を卒業させた自慢から、漸く年頃の娘さんを持つ親の嬉し心配など、秋の夜長も足らぬ有様。翌朝は清六陶園に六兵衛調の由来を聞き、現代工芸の粋を鑑賞して清水寺の坊に弁当をひらき、久山清太奨学資金その他尽きない話に名残りを惜しみつゝ、五年後を期して散会。

師を囲み集いし友の鐘鳴りに響きも和して京の鐘鳴りに眼に頻に生くる微び輝かせ、こし方語る友十九人、京にすむやからは心のどかにて会の世話しつ長生をぞせめ

(河合次男記)

予想し、一番近い者が特別賞を受け仕組。

さてその結果、洛友ヒントゲーム

一等 佐藤彰洋(昭和二十二年卒)

二等 伊藤定昌(昭和二十二年卒)

三等 伊達達(昭和四四年卒)

四等 近藤章(昭和二十二年卒)

五等 本多静雄(大正一三年卒)

特別賞 本多静雄(大正一三年卒)

となつて洛友ヒントゲームは、洛友ヒントゲームをここに二、三掲げますから、やつてみて下さい

続いて河津吉兵衛氏によるユーモア溢る、福引に移る。

福引を開いて「停電だ」と叫ぶ。河津さんこれに答えて「停電だ」「停電だ」それ「真暗だ」とばかり景品に枕を出したが、一寸小首をかき上げ「あ、間違つた」次に曰く「停電だ」「停電だ」「故障だ」でコンショウの景品に取つて代えられる。

面白いのを一寸拾つて見ると、

「リンキの奥様」：気が通して焼く

「景品は金網」

「竹上先生」：新しい博士

「景品は白紙」

「発電所の導水管」：ペナストツク

「景品はペンを入れる容器」

「京都鴨川の名所」：五条の大橋

「景品は五本の大箸」

「洋行」：西洋の足袋

「景品は下」

「花柳病」：……よくうつる

「妖怪魔」：……坊やをかくす

「景品は猿又」

「吾等の母校」：……京大

「景品は鏡台(おもちゃの)」

「これは空襲です」：……景品はなし

「景品は梨」

「川端さんの幹事ぶり」：……板について

「景品はかまぼこ」

「ナイター」：……夜間の大マツチ

「景品はやかんとマツチ」

「道楽娘の親爺」：……トイレットペーパー

「景品はトイレットペーパー」

「出船の別れ」：……テープを投げ

「景品はテープ」

「巨人対南海」：……球場で白熱戦

「景品は白熱電球」

「洛友会の集い」：……なごやか

「景品は両国やの菓子」：「なごやか」

「電灯が消えた」：……そこそま

つくらだ 景品は枕

最後に京都円山の名物と出て「夜使う桜」で景品は桜紙

これがなんと別嬪の女中さんに当つてしまつた。彼女曰く、「私独り者だわ」と。暫くして、でも「それ迄記念に大事にしまつておこう」で河津吉兵衛さんの福引はヤンヤの拍手の中に幕。

かくて林先生の万歳三唱で午後九時中部支部洛友会総会は終りを告げた

(出席者)

林重憲先生 山村忠行本部幹事長  
清水勤二支部長(大12)、本多静雄  
副支部長(大13)、庄野誠一(大12)  
河津吉兵衛(大13)、竹安保(大14)  
竹上 武雄(4)、伊達 達(4)  
古田 久一(6)、酒井 長武(8)  
川端 太郎(8)、河野 勝也(9)  
川村 進(12)、伊藤 久照(16)  
池田 豊(17)、小沢 勝(19)  
伊藤 定昌(20)、兼松 正幸(22)

### 本部だより

佐藤 彰洋(22)、近藤 章(22)  
(川村記)

### 昭九同窓会

今度渡米する林千博君の壮行会を兼ねて我々昭和九年卒業生の同窓会を去る八月七日、洛南宇治の花屋敷浮舟園で開きました。御帰朝早々で御多用中の林重憲先生の御出席を得たことは、この上無い幸いでした。会する者写真寄せ書の如く十三名で京阪神在住の者が多く、遠方の人々は時期の関係もあり、出席が得られませんでした。

食後、宇治川の清流に舟を浮かべて鵜飼を見物し、再び室に戻つて重憲先生御渡米土産のカラー 슬라이ドを、先生の洒落な御説明に、時々野次を飛ばしながら観賞させて頂きました。

(旭晴晃記)



